
スイッチ

JoJo

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スイッチ

【Nコード】

N4324C

【作者名】

JOJO

【あらすじ】

.....押さないと始まらない.....

さあ、困った。

今、俺はよくわからない場所で立ち尽くし、よくわからない状況に首を傾げている。目の前には小さなスイッチが一つ。当たり前のようにそこにある。

別に隔離されていることでも無いわけで、そこに壁があるはずでもないわけで。なのにそのスイッチは壁にへばりついているように浮かんでいる。

ここはどこだ。俺は何をしている？ 俺は何をすればいいのだ。ここを立ち去れば良いことなのだが、どうもそれは納得がいかない。

スイッチは押されることを催促するわけでも無く、押さないでくれと哀願するわけでもなく、ただ、俺を見つめている。そのことが余計に俺を悩ませる。

周りは白とも取れるが、黒とも思える。いや、赤かもしれない。青と言うこともあり得る。そしてスイッチ。

「なんだ。お前は」

自分で言ったはずの言葉は、どこか遠くから飛んでくる。

「何がしたい？」

また言葉が飛んできた。俺が言ったはずなのに。誰だ。俺を隠すのは。

スイッチは答えずに、俺を憎いほどに見つめてくる。

「何が言いたいんだ」

俺は苛立ちを覚えた。こんな物に。そして、俺を隠す正体に。

「答えろ！」

むきになる自分にも苛立つ。

「答えろよ！」

こんなただの個体が、俺の言葉に返事することなど、当たり前のように出来ることもなく、俺には叫んだ後の空白だけが残った。

「なんなんだよ……」

呟きさえもが、自分のものではないようだ。

俺は手持ち無沙汰に、その場に崩れた。俺の体が粉々になる気がした。そしてそれは“気”だけではすまない予感がした。

いや、すんだのかもしれない。この崩れる音は、どうやら彼方から聞こえてくるようだ。しかし一体なんなのだ？　ここ、スイッチ、崩れる音。謎は増えるばかりだ。

俺はせめて一つでも解決しようと、大きくなりつつある、その音

に耳を傾けた。

微かにする。しかし、耳の奥底から聞こえる。異様な感覚に飽き、耳を塞ごうとする。しかし、何か耳を叩いた。

“ 押さないと、始まらない ”

それは確かにその音の中からは出て来た。もう一度耳を叩かれる。

“ 始まらないと、押せない ”

それはさつきとは似ても似つかぬ言葉。押せば始まると思いきや、今度は始まらないと押せないではないか。

“ 押さないと、始まらない ”

また聞こえた。

「 つせえよ！ 」

苛立ち、地面を力任せに殴った。が、響くはずの鈍い音は何かに吸収され、空白感がまた、俺を襲った。

この空白感だけでもどうにかしよう。しかし、こんな状況ではどうにもできない。

とにかく、空いてしまった何かを取り戻すため、俺は記憶をまさぐった。そして気付いた。俺には記憶が無い。未来の想像図ならあるのだが、俺の中には過去がない。

謎は増え続ける。

俺は誰なんだ？ なぜここにいる？ 未来には何がある？

とにかくこの状況を脱出しよう。俺はスイッチに指をかざした。その時、遠くで何かが聞こえた。本来、聞こえるはずがない、何かが。そして近くからも、何かが届く。

遠くで聞こえる断末魔。断定は出来ないが、それとしか取れない。聞こえる。俺に何かを求めるように聞こえる。

そして近くで聞こえるは……激しく、歓喜する、産声。

これは産声だ。誰かが今、命を吹き出した。なぜ聞こえるのか。もはやそれは問題ではない。

俺は考える。

遠くで聞こえる断末魔。近くで聞こえる産声。

その瞬間。俺は全てを悟った。

……そう言うことが。全ての答えがつながる。

俺のいる意味。ここ。

そうだったのか。

小さな悲しみと苦しみ、そして怒りを感じながら、俺は立ち上がり、スイッチと向き合った。

“ 押さないと、始まらない ”

では、始めよう。始めないと、押せないのなら。

俺はスイッチに、震える指をかざした。

完

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4324c/>

スイッチ

2010年10月12日02時59分発行